

回覧



島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成29年 5月 1日 第3号

校長 酒井 元治

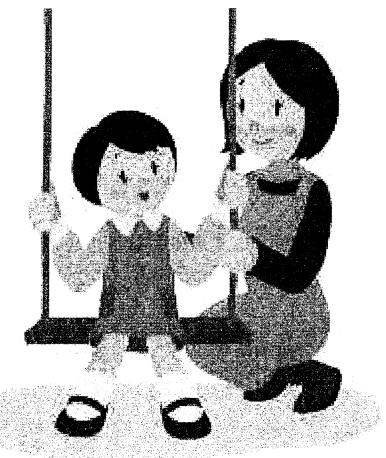
親のことば、はあちゃんのことば

先日、佐世保でバスを待っていたときのこと。私が待つバス停の道向かいに小さな公園があって、姉妹とおぼしき女の子が2人ブランコで遊んでいた。下の子は小学校に入るか入らないか程度、上の子は3年生か4年生程度。爽やかな春の日差しに揺れるブランコは気持ちよさそうに見えた。すぐそばには、お母さんらしき方が立っていた。しばらくすると、お母さんが「さあ、もう予約の時間だから、ブランコやめて行くよ。」と声をかけた。『ああ、歯医者か何かの予約待ちで遊ばせていたんだな。』と思

って見ていると、「あっ、間違った。まだ、20分ある。」というお母さんの声。ブランコをいったん止めた上のお姉ちゃんは、「お母さんのうそつき。うそつかんですよ。」と不満そうに言う。当のお母さんは「ごめん、ごめん。」とわが子に詫びる。何気ない親子のやりとりだが、何となく違和感を覚えた。

もちろんこのお母さん、嘘をつこうと思って言ったのではない。それなのに「うそつかんですよ。」はいかがなものか。「お母さんは、嘘をつこうと思ったわけじゃないよ。ちょっと間違えたんだよ。あなたが怒ったらお母さん悲しいなあ。」とかという受け答えはできなかったのか。(気の短い私だったら、わが子を叱りとばすかもしれないが。)

大人とて、自分に非があった場合素直に謝るというのは子どもに示さなければいけない姿だと思う。しかし、この場合お母さんが謝ることで、子どもの物事に対する甘えと、ちょっとしたことをネガティブにとってしまう構図をつくるように思う。



私事だが、教頭時代に同僚の先生から「教頭先生、ため息つきませんよね。」と言われたことがある。その先生が今まで出会った教頭はため息をつくことが多かったのかもしれない。私自身、何も意識していたわけではない。そう言われて振り返ってみると、子どもの頃の祖母の言葉が染みついているのかもしれない。

私の実家は諫早の片田舎で田畠を耕しながら、父は細々と造園業をしていた。もちろん、畠仕事を手伝わなければならないこともあります。

小・中学生の時は嫌々ながらの作業だった。(中学生では部活に逃げていたが…。)当然、その気持ちは態度に出る。ネガティブにならざる得ない状況の中で、つい「チッ」と舌打ちをしていたのだろう。その様子を、祖母は見逃さなかった。「舌打ちすんな！」とよく叱られたものだ。今でも物事に行き詰ったとき、祖母のその言葉が聞こえてくる気さえする。

ため息も、「幸せが逃げる」と昔から言われてきたが、最近は「ため息は、バランスが崩れた自律神経の働きを回復させようとする、体の作用。いわば、機能回復のためのリカバリーショットといえる。」という専門家の意見もある。

しかし、50代の私には周囲の人にはあまりいい感じを与えないように思える。考え方いろいろだろうが、物事を前向きにとらえるために幼い頃から声かけをしてくれていた祖母の言葉に感謝する。



運動会の練習、始まっています

5月21日の運動会に向けて、各学年の練習が始まりました。写真は1・2年生の練習の様子。リズムに乗りながら楽しそうに踊っています。気温も20度を越える日がほとんどになってきました。タオルや水筒の用意と、十分な睡眠をお願いします。

お願い

この学校だよりやホームページでは、活動の様子が伝わるように写真を使うことがあります。様々な理由により、お子様の顔写真等の掲載をご遠慮なさるご家庭は担任を通じてお知らせください。

なお、顔写真と児童名が同時に掲載され、個人が特定できるような表現には十分な配慮をしていきたいと思います。

これぞ、すってくろ！

4月27日(木)

今年も田植えの季節になりました。小値賀小学校は毎年、5年生が中村の消防小屋近くの田んぼを借りて田植えをします。

まず、田植えに先立ち、ぼろぼろになった看板をリニューアル。自分たちでデザインやロゴを考え、ペンキで塗り上げました。自分たちでも会心のできだったようです。

さて、この看板を持ち込んでの田植え本番。当初の予定では26日だったので、雨天のため27日に延期。担い手公社のみなさんの準備とご指導のもと、いざ田んぼの中へ。最初のうちは、「げえ～、ぬるぬるする～。」「地獄だ～。もうやめたい。」と言いつながら渋々始めた子もいました。私も田んぼに入って作業をしていたのですが、そんな子には、「半分ぐらい終わったら、すごく楽しくなるよ。

もう出とうなか、って言いたくなるって！」と前向きな言葉かけをしながらがんばらせました。

慣れてくると田んぼの中におしりをつけて下半身どろんこになる子が出ます。苗が不足して担い手公社の方がとりに行ってくださっている待ち時間になると、田んぼでかっけっこをする子、イモリになりきって這いずり回る子、平泳ぎ・背泳ぎをする子まで出てきました。なんとも、愉快で快活な「すってくろ」たちです。

植え終わってからは、ご近所の神川様のお宅で水道を使わせてもらって、担い手公社が準備してくださった豆おにぎりをいただきました。お昼近くでもあったのですが、「むちゃ、おいしい～。」と全員が感動。最初は「帰りた～い。」と言っていた子も、「校長先生が言った通りでした。すごく楽しかったし、こんなに苦労してお米を作るんだな、ってわかりました。それに、おにぎりがすごくうまかった。」と言いながら学校に帰りました。豆と塩味の素朴なおにぎりが、こんなにご



ちそうだったなんて、やっぱり汗を流した後だから素材そのもののおいしさと苦労の味がするのでしょうか。まだまだ、米作りの苦労のうちにも入らないような体験ですが、子どもたちにとっては貴重な、忘れられない体験だったでしょう。お家のみなさまには大変な洗い物になったことをお詫びいたします。あおってどろんこにさせたのは私です。

学童農園もにぎやか



学校近くの学童農園でも種まき、苗植えをしました。こちらも、担い手公社のみなさんのご指導です。植えた作物は下の通りです。

2年…カボチャ、枝豆

3年…落花生

4年…メロン、オクラ

1・6年生はサツマイモを育てる予定ですが芋づるがまだ準備できないため、しばらく後になります。

ところで、こんな統計があるのをご存じですか？平成21年に独立行政法人国立青少年教育振興機構が行った調査です。対象は20代から60代の成人5,000人にインターネットで回答を得たものです。

大人になった現在、様々なことに「意欲・関心」が高いと見られる人たちのうち、子どものころに海や川で遊んだ経験が何度もある者は33.6%、逆に経験がほとんどない者は22.0%で、明らかに差がありました。ほかの調査項目でも同様の傾向が見られ、同機構は、子どものころに自然に触れた、友達と体を使って遊んだ、地域の大人たちと接したなどの経験が多い者ほど、大人になってからの「意欲・関心」「規範意識」「職業意識」が高いと結論付けています。

同様の結果は、同じ頃学校をとおして実施された青少年調査（小5～高2）でも見られます。小値賀っ子はおかげさまで、いい体験の機会をいただいています。